

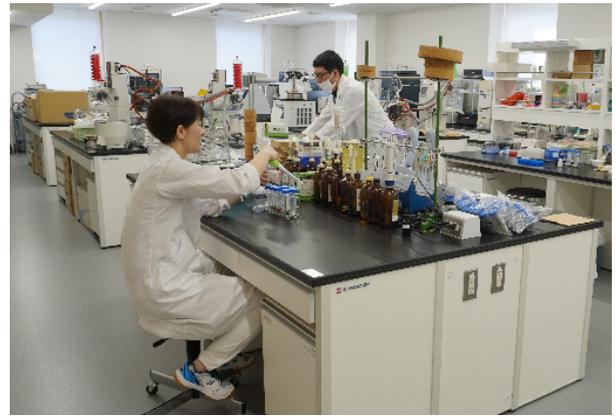
報道関係者各位

## アオモジの果実由来成分から脂肪分解促進効果を確認 牧野植物園初となる特許取得

高知県立牧野植物園を管理運営する公益財団法人高知県牧野記念財団（理事長：岡村昭一、以下牧野植物園）と株式会社バスクリン（本社：東京都千代田区九段北4-1-7、代表取締役社長：三枚堂正悟、以下バスクリン）は共同研究により、アオモジ（クスノキ科）の果実由来の抽出エキスが脂肪分解を促進する成分を含有することを明らかにしました。この成果の新規性が認められ、このたび特許を取得しました。研究成果の特許取得は 牧野植物園では初めてのこととなります。

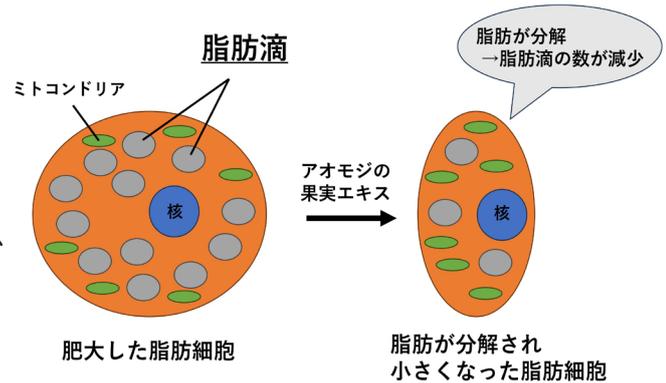
### 特許の概要

【発明の名称】 脂肪分解促進剤並びに脂肪分解促進剤を含む皮膚外用組成物及び入浴剤組成物  
【特許番号】 特許第7675979号  
【登録日】 2025年5月2日  
【発明者】 松野倫代（牧野植物園主任研究員）  
幾井康仁（同主幹）  
奥川洋司（バスクリン製品開発部有用性評価グループ長）



### 【詳細と展望】

牧野植物園では植物の多様な利用価値を見出し、製品化を見据えた植物資源探索研究を行ってきました。2013年からバスクリンと連携した本研究において、多種多様な植物の中からアオモジの果実の抽出エキスに着目。そこに含まれる成分によって、脂肪細胞内の「脂肪滴」の分解が促進されることが確認されました。①体内（細胞内）への脂肪吸収を抑制するのではなく、すでに存在する脂肪を縮小・消失する働きが確認されたこと②アオモジ抽出エキスにおいてそのような効果があることを初めて報告したこと、いずれもその新規性が認められたことに意義があります。この成果により、従来型の機能性食品だけではなく外用を活かして脂肪を減らす商品が出てくるのが期待されます。今後も第二、第三の素材を見つけるために共同研究を進めていきます。



アオモジ（クスノキ科）写真：©坂本彰

山陽地方と西九州・屋久島や奄美大島、台湾、中国、ヒマラヤに分布する落葉小高木。近年国内では本州（愛知県以西）にも都市部周辺を中心に分布を拡大してきている。雌雄異株。花は3～4月に葉に先立って咲き、花後に5～6mmの球状の果実がなり、秋には黒く熟す。

●取材対応可能日時 【対応：植物研究交流センター 松野】

7月9日(水)・11日(金)・15日(火)・16日(水)に対応させていただきます

※そのほかの日程でも調整可能な場合がありますので、下記連絡先までご連絡ください。

【連絡先】高知県立牧野植物園 広報課 橋本・沖

TEL 088-882-0448 (広報直通) E-mail: info-kikaku@makino.or.jp